

楠公史跡マップ

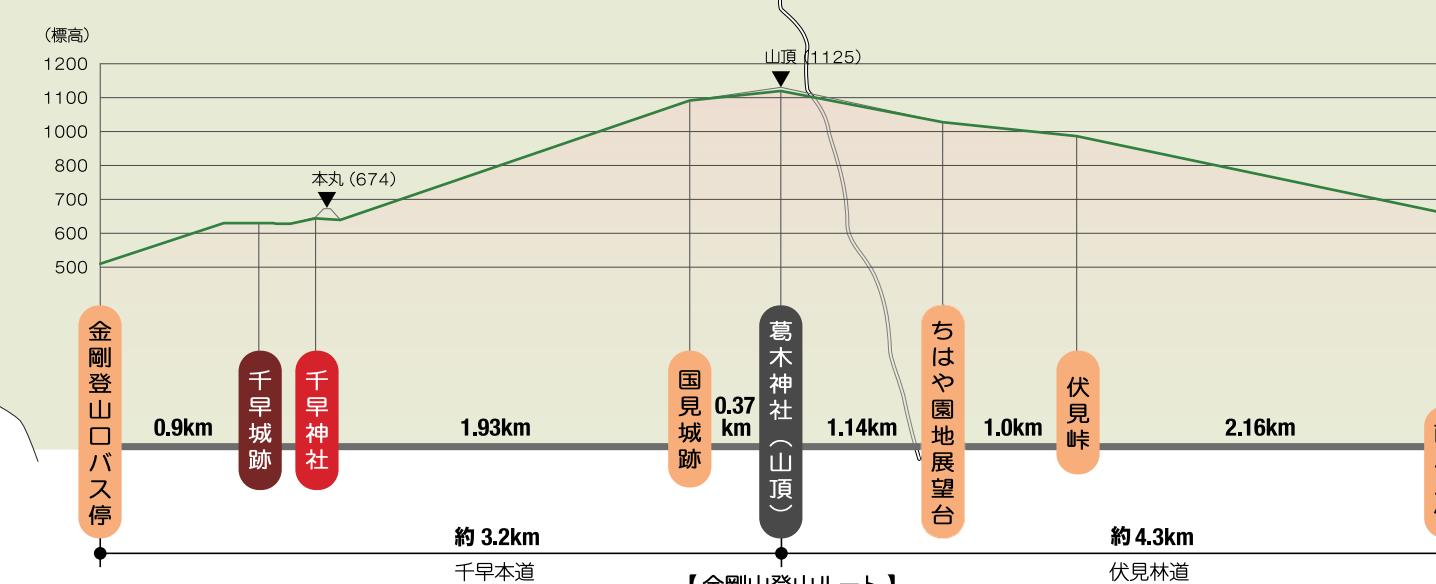
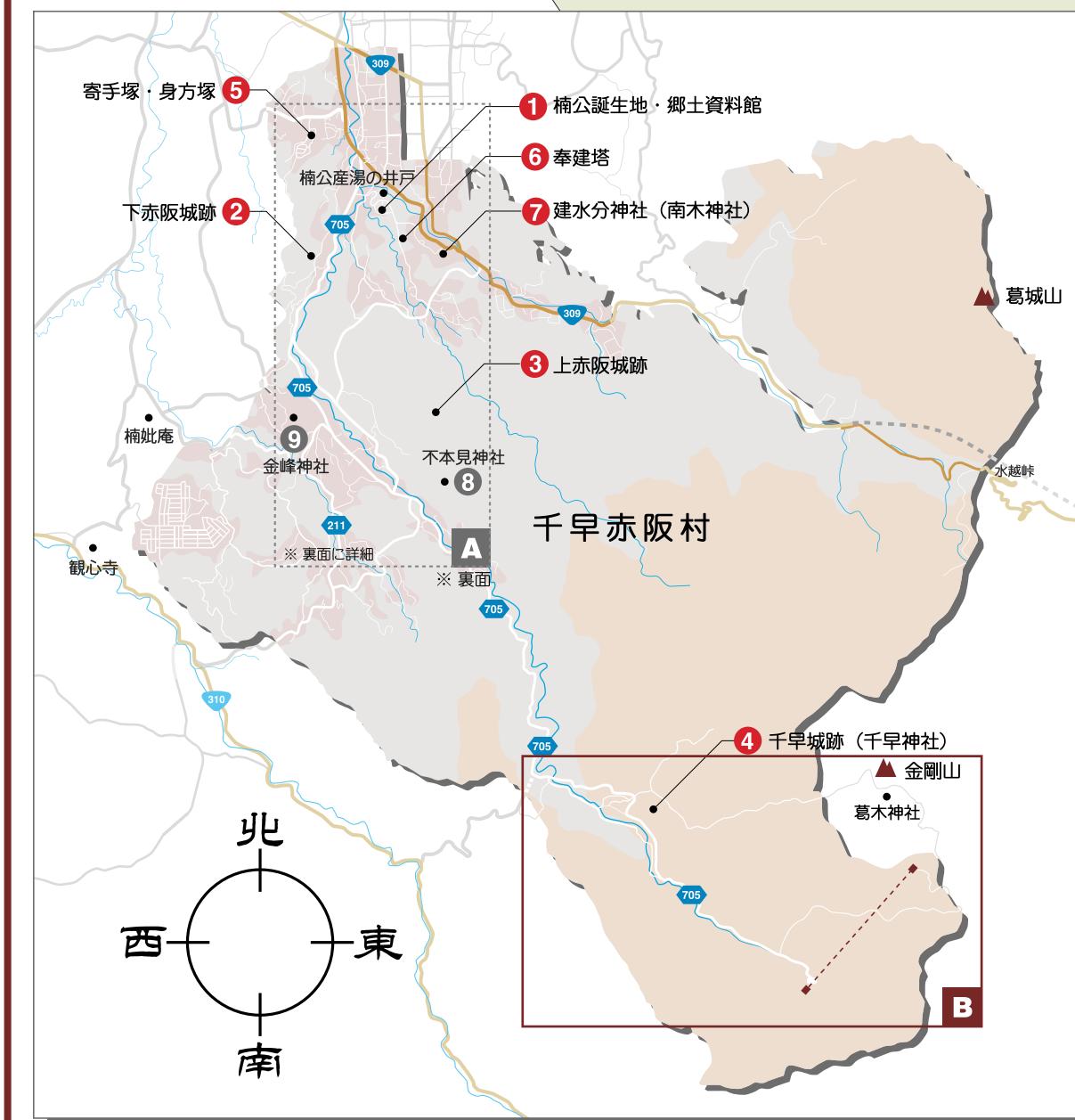
B面

【太平記のあらまし】 14世紀初め鎌倉幕府を支配する北条高時がひとり権力と富を握っていた。後醍醐天皇は朝廷に政治の実権を取り戻すべく倒幕運動を進めていたが、元弘元年(1331)8月退位を迫る幕府に対して、京都の笠置山に兵を挙げた。河内に勢力を持つ楠木正成は、戦乱に巻き込まれる民を思い参戦をためらっていたが、笠置山の天皇に召されて決意を固め、赤坂城を築き戦端を開いたのである。しかし笠置の天皇方は破れ、天皇は捕らえられ隠岐島に流された。赤坂城も幕府軍の攻撃に耐え切れず、正成は自害したと見せかけて落ちていった。その後、元弘2年(1332)、紀州で再起した正成は河内、摂津を席卷し、幕府軍を迎へるべく上赤坂城、千早城を築いた。翌年、吉野・赤坂・金剛山へ三手に分かれて攻めてきた八十万騎の幕府軍の一ハ万騎が上赤坂城に攻めかかった。城側の抵抗が激しく幕府軍は多くの死傷者を出した。攻めあぐねた幕府軍により水手を断たれ、城は落城した。赤坂、吉野も落とした幕府軍の全兵力が千早城に

攻めかけた。これに対し正成は100日間に及び知略をつくして奮戦し幕府軍の大軍を足止めした。この間に、後醍醐天皇は隠岐島を脱出、伯耆の船上山で再び挙兵して京に向かった。また、幕府軍として出陣した足利高氏が天皇方につき、倒幕の旗を揚げたことによって形勢は一気に逆転、関東では新田義貞をはじめとする討幕軍が続々と駆け上がり、ついに鎌倉幕府は滅亡するのである。後醍醐天皇は京都に還幸し、高氏は尊氏の名を賜るのだが、しかし…建武2年(1335)、北条の残党が鎌倉を奪回、尊氏がこれを征伐し武将達に恩賞を与えたことが後醍醐天皇の逆鱗にふれる。反旗を翻す京に攻め上がった尊氏を正成らは九州に敗走させたが、彼に味方するもの多く大軍を率いて都へ向かった。天下の和平のため尊氏と和を結ぶことを進言して退けられた正成は、勅を受けて死を覚悟し出陣した。少数の軍勢で再三敵を打ち破るがついに足利の軍勢に包囲され自決。尊氏は正成の死を悼み、丁重に弔ったあとその首を河内に送り届けたのである。



■ 千早城内で敵を欺くわら人形を作っている光景（「大楠公一代絵巻」の部分 楠妣庵観音寺蔵）



④ 千早城跡 (国史跡)

千早城跡は、上赤坂城跡（楠木本城跡）、下赤坂城跡（赤坂城跡）とともに後醍醐天皇による「建武中興六百年」を記念して昭和9年3月13日に史跡指定された。「千領破城」、「千葉屋城」とも書かれ、太平記によると元弘3年(1333)2月、上赤坂城を落とした兵力100万と号する鎌倉幕府軍が攻め寄せた。迎え撃つ楠木正成公は、わずか1000人足らずの兵で智略を尽くして幕府軍を100日間釘付けした。この間に幕府が滅亡、後醍醐天皇が隠岐から脱出し政権を奪還した重要な歴史的局面をこの城が作った。城は金剛山から派生する標高674mの尾根の突端に築かれ、急峻な地形を利用した天然の要害であった。また、城の位置が大和國との交通の要衝に位置することから、南北朝時代だけでなく後の室町時代、戦国時代の内乱期でも国境の城として重要な役割を果たしました。

千早本道
※ 登山道脇には小さな町石・石仏が点在

千早城跡縄張図

■ 千早城は、金剛山から西に延びる稜線が北西に屈曲した端部に約300m×400mの範囲で築かれ、周囲は千早川と比高差約175mもある深い谷に囲まれている。城は、千早神社裏の曲輪（本丸）をピーク（標高674m）としてその南東側に大規模な曲輪があり、更に北西方向にも大規模な曲輪（二の丸から四の丸）が連続的に設けられている。

【千早のトノキ】
伏見林道を約500メートル登った標高約700メートルの地点、千早川に流れ込む谷川沿いにあって、樹高約25メートル、幹周4.3メートルを測る巨樹で、樹齢はおよそ300年と推定されている。大きく盛えるトチノキは、行きかう人のピューポイントとして大きな役割を果たしている。（平成13年2月、大阪府の天然記念物に指定）

【楠公誕生地からの距離と所要時間】

- 1 楠公誕生地郷土資料館 → 6 奉建塔: 0.5km 徒歩7分
- 1 楠公誕生地郷土資料館 → 3 上赤坂城跡: 徒歩2.3km45分
- 1 楠公誕生地郷土資料館 → 7 建水分神社(南木神社): 0.8km 徒歩11分
- 1 楠公誕生地郷土資料館 → 5 寄塚・身方塚: 1.7km 徒歩25分
- 1 楠公誕生地郷土資料館 → 2 下赤坂城跡(下赤坂の堀田): 車1.9km4分 + 徒歩0.7km10分
- 1 楠公誕生地郷土資料館 → 4 不本見神社: 車2.7km15分 + 徒歩1.5km30分
- 1 楠公誕生地郷土資料館 → 8 千早城跡(千早神社): 車2.5km5分 + 徒歩0.9km20分
- 1 楠公誕生地郷土資料館 → 9 金峰神社: 車2.5km5分 + 徒歩0.5km10分

一般社団法人
千早赤阪楠公史跡保存会

〒585-0041 大阪府南河内郡千早赤阪村水分266番地（千早赤阪村立郷土資料館内）
TEL:0721-72-1588 FAX:0721-72-1582
E-mail:nanko-hozonkai@drive.ocn.ne.jp URL=https://nanko-hsps.jimdo.com

Instagram
facebook
home page

交周金
通辺剛
のに生
要は駒
衝古紀
に来泉
位に定
公園の最
高峰を
千早街
城はそ
のよだ
複数の山
に築か
れたので
しょう。
われ、

2022.5.20